

## 地域の生活交通(自主運行バス)

アナ： 「市長が語る2024三島」第23回の今日は、「地域の生活交通 自主運行バス」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願ひします。

市長： よろしくお願ひします。

アナ： まず、本日のテーマであります自主運行バスとはどのようなものでしょうか。

市長： 自主運行バスとは、廃止された民間の路線バスに代わり、地域の生活交通を確保するため、あるいは公共交通の空白地域の解消やその維持・活性化などのために、市が主体となって運行する路線バスでございます。

アナ： 三島市ではどのような路線がございますか。

市長： まず、中心市街地を循環する「せせらぎ号」、中郷地区を循環する「なかざと号」、三島駅と北上文化プラザを結ぶ「きたうえ号」、市役所と伊豆・村の駅をつなぐ「ふれあい号」、大型バスとジャンボタクシーを時間帯によって使い分け、大場駅と錦が丘・東大場・パサディナ地区を結ぶ「花のまち号」、予約型乗合タクシーの実証運行として、川原ヶ谷 山田・小沢(こざわ)地区と三島駅周辺地区などを結ぶ「山田・小沢線」など、現在9路線がございます。

アナ： 9路線もあるんですね。

市長： はい。新型コロナウイルス感染症の影響などによって、近年、バスの乗客数が減少している中、慢性的な運転手の不足や燃料費の高騰もあり、民間会社のバス路線維持は年々困難になってきております。

そこで、市民の皆様の生活の足を確保するため、自主運行バスとして、市が路線を引き継ぐケースが増えております。

アナ： 運転手不足と言えば、最近、「2024年問題」という言葉をよく耳にします。

市長： はい。2024年問題とは、働き方改革の一環で、本年4月からバスの運転手などのドライバーの労働時間に上限が設けられることに伴って生じるとされる様々な問題を言いますが、運転手不足もその中の最も大きな課題の一つでございまして、今後、人材の確保がさらに厳しくなっていくことが見込まれます。

アナ： 2024年問題というのは、とても大きな問題ですね。今後の生活交通のあり方にも影響があるのではないのでしょうか。

市長： はい。例えば、これまでのバス路線を維持していくためには、乗客数の少ない時間帯のダイヤを工夫するなど、効率化に向けた取組も必要になってくることが考えられます。

アナ： 路線バスは、市民の皆様の重要な生活の足ですので、何とかして維持できればよいのですが。

市長： その通りです。そのため、三島市では、できる限りの手立てを講じ、バス路線の維持に務めております。

例えば、先ほどご紹介した「花のまち号」は、乗客数の少ない日中の運行を大型バスからジャンボタクシーに変更して行っておりますが、そのような工夫をしたことで今まで通行できなかった場所での運行が可能となって、利便性が向上し、乗客数が増加するという効果が生まれました。

他にも「山田・小沢線」で実証運行を行っている予約型乗合タクシーは、予約した時間のみ運行する路線バス的一种ですが、予約した便だけの運行で、そのときに空いているタクシー車両を使用するため、無駄のない運行が可能です。

アナ： 市もバス路線を維持するために様々な工夫をされているということですね。ところで、私たち市民自身ができることはありますか。

市長： はい。日頃から、路線バスやタクシーなどの公共交通機関をできるかぎり利用していただくことだと存じます。

公共交通機関を積極的に利用していただくことで、自家用車の使用が抑えられ、二酸化炭素の排出量を削減することにもつながりますし、地域経済の活性化などにもつながっていくものと考えております。

実は、現在の三島市の公共交通カバー率は92.9パーセントでございます、全国的に見ても非常に高い数字を維持しております。

このカバー率をできる限り維持し、市民の皆様のご大切な生活の足を今後も確保していくためにも、何とぞ路線バスの利用にご協力くださいますよう、重ねてお願い申し上げます。

アナ： 豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。